

平成30年4月26日

東部農林振興センター 松江農業普及部

標題 | 出荷子牛の体測カルテを提供しました～子牛の市場価値向上へ～

(ダイジェスト)

4月23日（月）に開催された松江市和牛改良組合の総会において、毎月子牛市場で行っている体測結果をまとめ、生産者へ情報提供しました。今後も関係機関と協力して、市場価値の高い子牛の生産に取り組めます。

4月23日に松江市和牛改良組合（組合長 岸本正氏、組合員45戸）の総会が開催され、松江市内繁殖農家28戸の参加がありました。

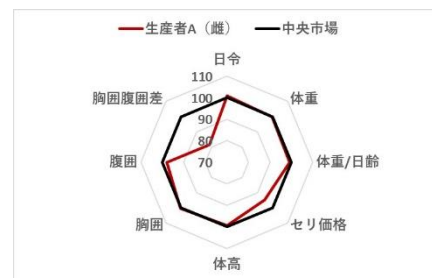
県各普及部や畜産関係機関が協力して、毎月子牛市場で出荷子牛の体測等を行っていますが、この度、当普及部は、過去5年間の体測データを生産者毎にカルテ形式にまとめ、総会の場において提供しました。データは過去5年間、生産者ごとの日令・体重・DG（体重/日令）・セリ価格・体高・胸囲・腹囲・胸囲腹囲差8項目の出荷成績を当年の中央市場平均と比較し、それらを見やすくレーダーチャート(八角形グラフ・下右)に加工しました。

生産者からは「なぜ自分の牛は価格が凹んでいるのか?」、「価格には血統や体格等様々な要因が絡むため、理由は一概には分からないが、血統も体格も良い牛ならば平均以上で販売できるはず。」等の積極的な発言が多数あり、今回提供した情報が必要とされていることを感じました。また、総会後に開催された懇親会では、カルテを見せ合って意見交換する生産者の姿が見られました。

当普及部では今後も同様の取組みを続け、生産者が自身の出荷牛を客観的に捉え、意見交換等することで、子牛の斉一性や市場価値の向上に繋がりたいと考えています。



説明風景



コメント

【特に素晴らしい点】
年々牛が大きく、バラつきが少なくなる傾向にあります。
【改善が見込める点】
腹囲が大きくなると、さらに良いと思います。

提供したカルテ（一部抜粋）